

季報

二松学舎大学附属図書館
quarterly report



目次 新入生にお薦めの本

- ◆ P2 小方 伴子／改田 明子
- ◆ P3 咲川可央子／多田 一臣
- ◆ P4 戸内 俊介／西川 雅子
- ◆ P5 野間 文史／林 謙太郎
- ◆ P6 松本健太郎／山崎 正伸
- ◆ P7 九段館内展示「横溝正史の世界」／
柏市立図書館・市内4大学図書館ビブリオバトル開催
- ◆ P8 図書館だより／大学資料展示室より

No.95

2016(平成28)年
3月



文学部 小方伴子 准教授

『漢文入門』 著者：前野直彬
発行所：筑摩書房（ちくま学芸文庫）2015年 1,080円
／講談社（講談社現代新書）1968年

『アジアと漢字文化』 著者：宮本 徹・大西克也
発行所：放送大学教育振興会 2009年 3,456円

『現代語訳 史記』 編訳者：大木 康
発行所：筑摩書房（ちくま新書）2011年 885円

私たちはなぜ、高校や大学で漢文を学ぶのでしょうか。『論語』や『史記』といった中国の古典作品を読むのに、なぜ敢えて漢文訓読すなわち「中国文語文」であるところの原文を「日本語の文語文」で読み下してゆく（『漢辞海』（第三版）p.1690）という厄介な方法をとるのでしょ。そもそも漢文とは何なのでしょう。そんな疑問を少しでも抱いたことのある方に、前野直彬『漢文入門』を推薦します。

同書は漢文の学力を増進させることを目的とした入門書ではありません。「漢文」ということばを新たに定義するところからスタートし、訓読法の原則及びそれが成立するまでの過程を丁寧に述べた解説書です。漢文訓読の熟達に向かって邁進するのは、もちろん意義のあることですが、その前に一度、「漢文とは何か」という基礎に立ち戻ってみませんか。

漢字研究の最先端を知りたい方には、宮本徹・大西克也『アジアと漢字文化』を、『史記』の名場面を現代日本語訳で楽しみたい方には、大木康編訳『現代語訳史記』をお薦めします。

文学部 改田明子 教授

『「世間」とは何か』 著者：阿部謹也
発行所：講談社（講談社現代新書）1995年 864円

『恋愛論』 著者：橋本 治
発行所：講談社（講談社文庫）1986年

『困難な成熟』 著者：内田 樹
発行所：夜間飛行 2015年 1,728円

3冊とも、元気の出る本です。日々の生活や人間関係にもややもした思いを抱いている読者なら、スカッとできるかも。自分のもややの正体がつかめた感じになって、しばらく明るい気持ちで暮らせます。なので、もともと日々元気に楽しく過ごしている人には、あまり縁がないかもしれません。

『「世間」とは何か』は、自分が周囲の人とどのような関係の中で生きているのか、客観的に考える手がかりを示してくれます。『恋愛論』は、本気でこのテーマを考え抜いた著者の熱い思いが伝わってきます。同時収録の有吉佐和子さん追悼文もぜひご一読を。『困難な成熟』は、内田ファンとしてオススメの新刊です。平明かつ独特で説得力のある語り口が魅力の内田節。思わず引きずり込まれます。サブタイトルによると、「14歳から読みたい自由と勇気の人生案内」。

大学生活ではたくさんの本に触れる機会があるでしょう。そんな本たちのなかで、まさにこれは自分のために書かれた本だと思える本に、ぜひとも出会えますように。

国際政治経済学部 咲川可央子 専任講師

私は「経済発展論」のゼミを担当する教員です。この学問領域と関連する「おすすめの本」を新入生にとって読みやすい順番に3冊紹介します。

①『レ・ミゼラブル』全4冊 著者：ヴィクトル・ユゴー 豊島与志雄翻訳
発行所：岩波書店（岩波文庫）1987年 3,888円

ヴィクトル・ユゴーが1862年に発表したフランス文学『レ・ミゼラブル』の邦訳版です。様々な出版社から邦訳版がでているので、自分の好きなものを選ぶので良いかと思います。私の読んだ岩波文庫のものは3巻に分かれていて、第1巻は、ボロボロに破れた服を着た幼い少女コゼットが、その小さな体では支えられないほど大きなホウキを持った表紙が印象的です。極貧に陥ったファンテーヌが、娘コゼットの養育のために、自分の歯を抜いて売るシーンは強烈でした。

②『Principles of Economics』7th edition

著者：N.Gregory Mankiw 発行所：Cengage Learning 2014年 約300ドル

経済理論の入門的な教科書です。非常にわかりやすく、経済学的思考が身につきます。新入生の皆さんは「こんなに読めない！」と思うかもしれませんが、薄い本よりも分厚い本の方が丁寧な説明があるので英語であってもわかりやすいです。

③『拡大する直接投資と日本企業』 著者：清田耕造
発行所：NTT出版 2015年 2,700円

2015年に日経・経済図書文化賞を受賞した本です。グローバル化、日本企業などに焦点を置いた、国際政治経済学部の学生必読の本です。「直接投資とは何か」という基本から理路整然と論理展開されるので、前知識のない新入生にも是非読んでもらいたいです。

文学部 多田一臣 特別招聘教授

①『みんなの世界』 著者：マンロー・リーフ、光吉夏弥訳
発行所：岩波書店（岩波の子どもの本）1953年 972円

子どもの本と侮ってはいけない。個人と社会の関係、民主主義とは何であるかを、これほどわかりやすく説いた本はない。むしろ大人たちすべてに読んでほしい本である。これを読むと、「人を殺してはなぜいけないのか」などという愚かな質問は出なくなるはず。

②『相楽総三とその同志』 著者：長谷川伸
発行所：講談社（講談社学術文庫）2015年 1,706円

明治維新を積極的に肯定する人たち、とりわけ司馬遼太郎史観に毒されている人たちにはぜひ読んでほしい本。明治維新の裏側で何があったのか、明治の元勳とはどんな連中だったのかもここから知ってほしい。もう一冊、石光真人『ある明治人の記録 会津人柴五郎の遺書』（中公新書）もあわせて読んでほしい。薩長藩閥体制の害悪がここから見えてくる。

③『高丘親王航海記』 著者：渋沢龍彦著
発行所：文藝春秋（文春文庫）1990年 550円

言葉の想像力は、時として現実を超える世界を生み出すが、これほどそれを見事に示した小説はない。戦後文学の金字塔。死の間際にこんな幻想的な小説を書くなんて、それも驚き。もう一冊、娯楽の世界で何とおもしろい世界を作り出すことができるものかと思わせるものとして、胡桃沢耕史『天山を越えて』（徳間文庫）も紹介しておく。胡桃沢耕史なんて、たぶん真面目な新入生は名前も聞いたことがないに違いない。この二冊で小説の面白さを存分に味わって下さい。

文学部 戸内俊介 専任講師

- ①『われ笑う、ゆえにわれあり』 著者：土屋賢二
発行所：文藝春秋（文春文庫）1997年 594円

実にふざけたエッセイである。著者は曾てお茶の水女子大学で教鞭を執った哲学者であるが、そのアイロニカルな視点で描かれた筆致は読む者を笑いへ誘う。本書を薦める理由は大きく分けて5つあるが、そのうち2つは差し障りがあるところを書くことができない。あと2つは思い出せず、残り1つは今、鋭意究明しているところである。

なお、ここでは土屋氏の第1作目を代表としてあげたが、氏は他にも多くのエッセイを出版している。現在でも、『週刊文春』で「ツチヤの口車」という題目のエッセイを連載している。

- ②『獏鷲 名探偵帆村莊六の事件簿』 著者：海野十三 日下三蔵編
発行所：東京創元社（創元推理文庫）2015年 1,080円

海野十三は戦前に活躍した作家で、「日本SFの先駆者」とも呼ばれているが、一方で多くの探偵小説も発表している。本書はその中でも名探偵帆村莊六が登場する10篇を集めた短編集である。作風は荒唐無稽、奇想天外。SF作家としての手腕を遺憾なく発揮している。特に本書所収の「俘囚」は、現代で言えば、京極夏彦氏の作品に影響を与えていると思われる箇所も有り、ミステリー好きには、一読の価値がある。

- ③『数字とことばの不思議な話』 著者：窪菌晴夫
発行所：岩波書店（岩波ジュニア新書）2011年 885円

以上2冊は私の趣味の本であるが、最後くらい研究領域に関わるものを取りあげたい。本書は著名な言語学者である窪菌氏の著書で、数字にまつわる言語現象—例えば、一から十をカウントするとき、4を「し」、7を「しち」と読むのに、反対に、なぜ十から一をカウントするときは、4を「よん」、7を「なな」と読むのか、など—を解き明かしていく。日本語、外国語に関わらず、「言葉」に興味を持っている学生に是非読んでほしい一冊である。出版元は「岩波ジュニア新書」だが、大学生、さらには大学院生でも学ぶところが多い。

国際政治経済学部 西川雅子 (Masako Nishikawa-Van Eester) 特別任用講師

- ①『本当に「英語を話したい」キミへ』 著者：川島永嗣
発行所：世界文化社 2013年 1,404円

現地友人の紹介で川島選手とベルギーのアントワープで会い、話をしたことがある。当時リールセSKのGKでキャプテンだった。「僕のように、ごくごく普通に公立学校教育からスタートした者でも、複数の外国語をマスターできる」。その通り。この本は尊敬する同業(大学教員)の友人から戴いた。

- ②『海の祭礼』 著者：吉村 昭
発行所：文藝春秋（文春文庫）2004年 788円

英語以外にオランダ語翻訳通訳もするので、阿蘭陀通詞には以前から関心があった。日本英語教育史上最初のネイティブスピーカー英語教師マクドナルドと、彼の一番弟子で後にペリーとの交渉で英語通訳として重要な役割を果たす幕末の長崎通詞森山栄之助の物語。英語習得を短期間によくここまで。

- ③『文法化する英語』 著者：保坂道雄
発行所：開拓社 2014年 1,944円

英語学習で「文法」は特に嫌われている。しかし、ことばを使う上での約束を知ることは学習の第一歩なのだ。現代英語の文法規則が歴史的に見てなぜそうなったのか、を読んでみると、意外におもしろいかもしれない。

文学部 野間文史 特別招聘教授

- ①『**科挙 中国の試験地獄**』 著者：宮崎市定
発行所：中央公論新社（中公文庫）1984年 987円

宮崎市定氏は20世紀を代表する東洋史研究者であり、その巨大な業績は『宮崎市定全集』全24巻・別巻1（岩波書店）にまとめられています。そして宮崎氏には専門書のみならず、一般概説書の著作の数も多く、中国の文化を支えた士大夫層と密接に関わる科挙（官吏登用試験）制度の実態を詳細にして且つ平明にまとめた本書はその1冊に過ぎません。ですから新書であれ文庫本であれ、どの書物も推薦書だということです。

- ②『**荘子 古代中国の実存主義**』 著者：福永光司
発行所：中央公論新社（中公新書）1964年 777円

孔子『論語』に代表される儒家思想とともに、いわば表裏の関係で伝承されてきたのが老子・荘子の道家思想でした。福永光司氏は本書の第一章を「痛ましいかな現実」で始め、「危ういかな人間」「惑える人々」と続けた後、「真実在の世界」「自由なる人間」で締めくくります。いわゆる「団塊の世代」の者で、この書物を読んで中国学研究に志したという人は結構多く、平成生まれの皆さんにもお勧めします。

- ③『**漢文法基礎 本当にわかる漢文入門**』 著者：加地伸行
発行所：講談社（講談社学術文庫）2010年 1,782円

漢文の読解力を身に付けたいと願う人に勧めたい書物の数は多いのですが、1冊に限定せよと言われれば、本書を挙げたい。かつて某進学塾の機関誌に連載されたもので、著者は匿名の二畳庵主人、講談社学術文庫に収められるに当たり、『儒教とは何か』（中公新書 1990）の著者加地伸行氏であることが明らかにされました。この約600頁の大部な書物を読み通したら、読解力が大幅にアップすること請け合いです。

文学部 林謙太郎 教授

- ①『**世界名詩名訳集**』 編者：河盛好蔵
発行所：新潮社（世界詩人全集24）1968年

いわゆるアンソロジー（詞華集）。西欧近代の選りすぐりの名詩を名訳で編んだもの。たとえば、堀口大學1925『月下の一群』所収のジャン・コクトー「耳」は、「私の耳は貝のから 海の響をなつかしむ」と紹介されます。異言語との出会いは豊かな果実をもたらすことを実感させてくれます。

- ②『**新編日本古典文学全集**』 発行所：小学館 1994～2002年

この全集は、新しい研究成果に基づいた注釈と現代語訳が併載されているところにその特色があります。現代語訳のところでは構わないから、どんどん読み進めてください。興味のある箇所、あるいは何か引っかかるところが出てきたら調べてみましょう。

- ③『**助詞の諸問題**』 著者：国際交流基金日本語国際センター 鈴木忍執筆
発行所：凡人社（教師用日本語教育ハンドブック③文法Ⅰ）1978年 1,296円

これは書名にもあるように、日本語教師をみざす人のためのテキストです。日本語学習者が主に助詞に関してまちがってしまった例を取り上げ、それはなぜまちがってしまったのかを丁寧に説明していくという、極めて実践的・臨床的な記述のしかたで、興味深い事象を淡々と記していくタイプの文法書とは一味違った内容になっています。

文学部 松本健太郎 准教授

他者の文化をまなごうと異文化を旅するとき、そこには多様なアプローチがありうるのだ、ということを以下の3冊は教えてくれます。

- ①『**記号の国：1970**』 著者：ロラン・バルト 発行所：みすず書房（ロラン・バルト著作集7）2004年

フランスの記号学者として高名なロラン・バルトが数度にわたって来日し、日本文化との接触から彼自身が体感したことをイメージとテキストをおりまぜながら綴った書物。異邦人としての立場から異文化に、あるいは異質な他者に向き合うことの意味を考えさせてくれる一冊。

- ②『**森と氷河と鯨 — ワタリガラスの伝説を求めて**』 著者：星野道夫 発行所：世界文化社 2006年

苔むした森、蒼い氷河、ザトウクジラの海。太古の気配を残す南東アラスカにワタリガラスの神話を追ひ、かつて、そこに暮らしていた先住民の世界観を想像する——写真家・星野道夫による美しいフォトエッセイ。

- ③『**ソーシャルトラベル：旅ときどき社会貢献。：価値観をシフトする新しい旅のかたち**』

著者：本間勇輝・本間美和 発行所：ユーキャン学び出版 2012年 1,512円

観光でも、ボランティアツアーでもない“ソーシャルトラベル”。結婚を機に一流企業を退社した30代夫婦がインド、ネパール、アフリカなど、世界のリアルを旅しながらくりひろげる「旅ときどき、社会貢献」。勇輝氏には、私のゼミのプロジェクトでもお世話になりました。

文学部 山崎正伸 教授

- ①『**国文学全史—平安朝篇(1)・(2)**』 著者：藤岡作太郎 秋山 虔 他校注 発行所：平凡社（東洋文庫198・247）1971・1974年
[電子版] 平凡社 2015年 各2,916円

藤岡作太郎は、初の国内の論文博士です。西田幾太郎、鈴木大拙〈貞太郎〉とともに加賀の三太郎と称せられました。幾太郎は「頭脳は実に旺盛で、よく書を読み、よく記憶してゐた。その上判断は明晰精確で且つ妥当であった。」と評しています。1900年から1903年の三年間の講義に基づいて1905年に東京開成館から出版されたのが本書です。以後、岩波書店、改造文庫、東洋文庫、講談社学術文庫と現代まで出版が続く、平安文学研究を飛躍的に進展させた名著です。特に東洋文庫には、その後の研究が秋山虔氏他で付加されています。東京開成館版の国文学全史が近代デジタルライブラリーにも入っていますが、やはり東洋文庫で読んで欲しいものです。

- ②『**言葉の海へ**』 著者：高田 宏 発行所：洋泉社（洋泉社MC新書）2007年 1,836円

日本初の国語辞書「言海」を作り上げた大槻文彦の生涯を、明治維新後の激動の時代と合わせたノンフィクション小説です。グローバル化が叫ばれる現在において、改めて読んでもらいたい小説です。そして、できたら図書館の5冊本の大言海を引いて欲しい。5巻目には索引があって、あいいうえお順の辞書でも索引がある意味を考えて欲しいと思います。こちらも新潮社の単行本から、岩波同時代ライブラリー、新潮文庫など出ていました。

- ③『**平安朝の生活と文学**』 著者：池田 亀鑑 発行所：筑摩書房（ちくま学芸文庫）2012年 1,080円
[電子版] 筑摩書房 2015年 918円

平安時代の宮廷の人びとの生活を、さまざまな資料によって解説した名著です。河出文庫で出版されたときは、挿絵がありませんでしたが、以後のものには挿絵が入ってより読みやすくなっています。もちろん、研究は日進月歩で進んでいますから、違うところもありますが、やはり平安時代の文学を読むには、最高の入門書でしょう。ここから入って、より詳細な研究書へと進んで欲しいと思っています。

九段館内展示「横溝正史の世界」

『犬神家の一族』や『八つ墓村』など、日本ミステリー界を代表する横溝正史の作品を九段図書館で現在展示しています。



また、1号館地下2階ガラス展示コーナーでも、「世界で読まれている横溝正史作品」と題して、中国語や韓国語等の海外翻訳作品を紹介しています。



中国語版



韓国語版

柏市立図書館・市内4大学図書館ビブリオバトル開催

平成27年11月21日（土）、開智国際大学図書館にて、柏市立図書館と市内4大学図書館（東京大学、麗澤大学、開智国際大学、二松学舎大学）の合同企画である知的書評合戦ビブリオバトルが開催され、各図書館から1名ずつバドラー（発表者）が出場しました。

本学からは、7月12日（日）のオープンキャンパスで行われた学内予選を勝ち抜いた文学部国文学科3年次生の西翔太さんが出場。熱いバトルの末、西さんは見事優勝し、チャンプ本賞を受賞しました。今年で4回目の開催となるこのビブリオバトルで本学がチャンプ本賞を受賞したのは初めてのことです。

なお、詳細は本学ホームページのNews & Topics 15/12/03および図書館のページに掲載していますのでぜひご覧ください。

図書館だより

図書館カレンダー 開館日・開館時間を変更することがあります。詳しくは図書館ホームページをご覧ください。

九段図書館

3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

3/7(月)～3/11(金)は蔵書点検のため閉館
3/25(金)～3/31(木)は年度末作業のため閉館

閉館 8:40～21:50 9:00～16:50

柏図書館

3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

3/25(金)～3/31(木)は年度末作業のため閉館

4/1(金)～4/5(火)はスクールバス運休のため閉館

閉館 9:15～17:00 9:15～16:30

大学資料展示室より

2月4日(木)より29日(月)まで、大学資料展示室では企画展「岡山の文人たち」を開催しました。表紙はそのうちの一点で、本学創立者三島中洲の師山田方谷の書、「行書張横渠西銘冊」です。「西銘」とは北宋の儒者張載(号は横渠)が書斎の西側に掲げた箴言で、宋明・性理学の世界で極めて重視された言葉です。

今回の展示では、上記の山田方谷のほか三島中洲の出身地岡山県にゆかりのある横溝正史や吉行淳之介、谷崎潤一郎といった作家たちの草稿も展示しました。

編集後記

季報95号をお届け致します。今号では「新入生にお薦めの本」を特集とし、10名の先生方にお薦めの本を紹介していただきました。ありがとうございました。

新入生ならずとも、きっと皆さんの気になるものがあるでしょう。ぜひ手にとってみてください。
(S・A)

二松学舎大学附属図書館

季報

第95号

発行日 平成28(2016)年3月1日

発行 二松学舎大学附属図書館

九段図書館 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16

電話: 03-3263-6364

柏図書館 〒277-8585 千葉県柏市大井2590

電話: 04-7191-8758

印刷所 株式会社 サンセイ

電話: 03-5227-8333